

# 途上国における著作権保護

—タイの海賊版の事例をもとにして—

Innovation Nippon

# 問題意識

- 途上国における著作物の海賊版はコンテンツ産業にとって長らく問題であった
- 厳しい取り締まりを要求する声があるが、実効性がなかなかあがらない。その一方で、海賊版は途上国で無料で広告をし、市場を開拓してくれているようなものだという見解もある。
- 望ましい一つの解は、途上国の初期に海賊版が普及してファンのすそ野をひろげ、そののちに正規版が発売されると、消費者が海賊版から正規版に移行して、権利者に収入が入るようになるというパターンであろう。
- ただし、このような移行が政府の強いアクションなしに起こるかどうかは意見が分かれる。
- ここで興味深いのはタイの事例である。近年タイではマンガの海賊版が激減し、正規版に移行したといわれる。
- この移行はどのようにして生じたのかを、ヒアリングと読者へのアンケート調査によって把握する。

## タイの状況:ヒアリング調査

- タイの状況を知るため、タトルモリエージェンシーの荻野氏と明治大学の藤本由香利氏へのヒアリング調査を行った。以下ではヒアリングの結果をまとめて記す。
  - タトルモリエージェンシーは長年にわたり日本から途上国向けのマンガの著作権管理の実務を行っており、藤本由香里氏は2013年にタイのマンガの海賊版の現地調査を行っている。
- タイでは2000年に入ってから海賊版が目立って減少した。毎年タイを訪れるタトルの社員が、現地の書店や路上で売られている海賊版と正規版の比率をいわば定点観測して得た体感としては、2002年ごろには少年マンガの30%が海賊版であったが2009年ごろには5%程度にまで低下したという。
  - 現時点の海賊版は、タイで発行が許されていないR18の作品や、ボーイズラブ関係が多いということである
- これにともなって、タトルの著作権収入も急激に伸びた(図1参照)

図1 タトルエージェンシーのタイからの著作権収入  
2000年を1として描いた(資料出所;タトルモリエージェンシー)



- 2007年から急激に著作権収入が増え、3倍にも達していることがわかる。
- 2007年以降に日本のマンガの人気が増えたという事実は報告されていない。したがって、この著作権収入の増加は、タイの漫画市場が海賊版から正規版に移ったためと推定される。

## なぜ海賊版が減ったのか1:雑誌の場合

- 1992年、現地の海賊版業者が正規ライセンスが欲しいと言ってきた。
  - 理由は海賊版業者同士の過当競争でもうからないから。→独占販売権が欲しい
- 1994年に雑誌(少年ジャンプ)創刊、できるだけ早くタイ語版を出す
  - 日本で日本語版が出てからタイ語に翻訳して正規版を出すと、どうしても遅れる。海賊版事業者は、正規版より早く翻訳して出版してしまうからである。海賊版事業者の動きは早く、場合によっては日本で出るより早くタイで海賊版が出ることすらある(発売日前の日本の流通過程あるいは印刷過程でタイへ原稿が漏れていると考えられる)
  - 対策として、発売を早めた。少年ジャンプの正規版をタイで出したはじめの6か月(1994年)の間は、日本で月曜に発売されるものをその10日前の金曜にタイで読めるようにした。出版社のお願いして発売の2週間前にはできている「青焼き」という校正紙をタイに送ってもらって、それで急いでつくった(翻訳は1日、印刷、配布で3日)
  - 正規版が海賊版より早くでるようになったことで、雑誌の海賊版は市場からすがたを消していった。
  - 6か月たって海賊版が消滅したのを見て、日本と同じタイミングに戻した

## なぜ海賊版が減ったのか2:単行本の場合

- 単行本の場合、現地で正規ライセンスととった現地企業が、海賊版事業者に圧力をかける
  - まず、海賊版業者に通知する。「うちは正規ライセンスをとった。海賊版はやめるように」 → タイは衝突を避ける文化があり、これでかなりやめる
  - それでも止めない時は、印刷所に電話をかけて印刷をやめろと言う。それでも印刷を辞めなければ警察を呼ぶという。それでも止めない時は実際に呼んで、現行犯逮捕となる。
  - これらのプロセスは、正規版を出すのが現地企業だからできることである。彼らは誰が海賊版を出しているかを業界事情として良く知っている。この意味で現地の企業を味方にしたことが成功の秘訣のひとつである。
  - ただし、この方法はタイだからできたのかもしれない。タイには衝突を避ける文化がある。ベトナムは微妙。中国では無理かもしれない。

## ヒアリングまとめ

- タイのマンガ市場では90年代はほとんどが海賊版だったが、2000年台に入ってから正規版に置き換わっていき、現在、海賊版は体感では5%程度である
- 日本のエージェントのタイでのマンガ版權収入が2007年以降急激に増えていることが、これを裏付けている。
- 海賊版が減った理由は、雑誌の場合、日本と同時か日本より早く出すことにしたことである。
- 単行本の場合は、現地の正規版事業者が、海賊版事業者に通知、あるいは出版社に抗議して止めさせる作業を地道に続けた結果である。
- 後者の単行本の場合は現地の正規版事業者との共同作業であり、現地に精通した味方を得たことが力になっている。
- これらの知見を裏付けるため、タイでアンケート調査を実施した。

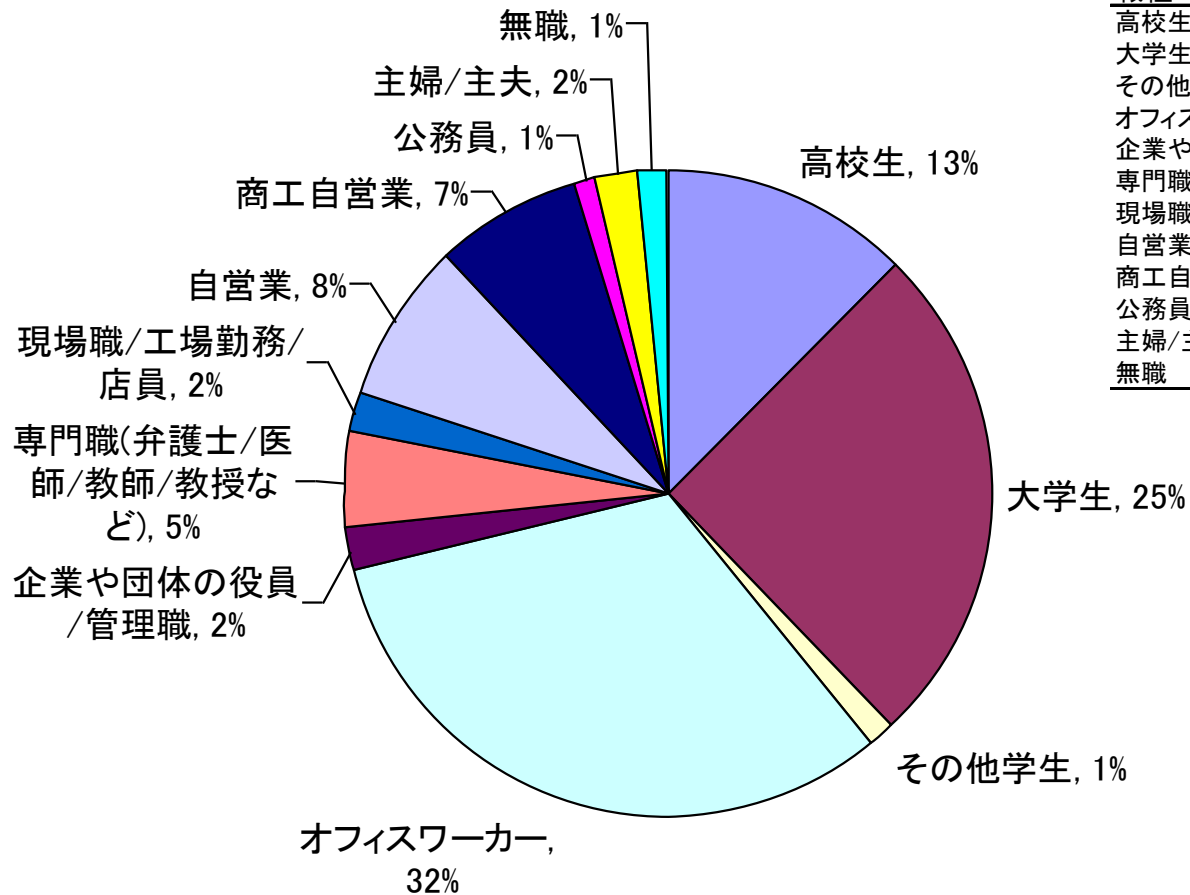
## 調査概要

- 調査方法。PCモニター500人。年齢16歳～35歳。調査男女250人ずつ。年齢と性別は均等割り当て、調査時点は2014年1月
  - PCを持っている人なので、サンプルは高学歴・高所得・都市部在住者に偏る点に注意
- スクリーニング：マンガを年に5冊以上買うか貸本屋から借りて読む人
  - 友人から借りて読む、図書館などで読むのは除く。すなわち対価を払う場合に限定
  - マンガとは有料の電子書籍を含む
- サンプルのプロファイル
  - 年齢：は5歳刻みでほぼ均等割り付け
  - 男女：均等割り付け
  - 職業：学生が1/3、社会人2/3
  - マンガを読む程度：マンガを年に年に20冊以上読む人が半数弱
  - 学歴：大学卒が半分

age 人数			
16-19	124	男	250
20-24	124	女	250
25-29	126		500
30-35	126		
	500		



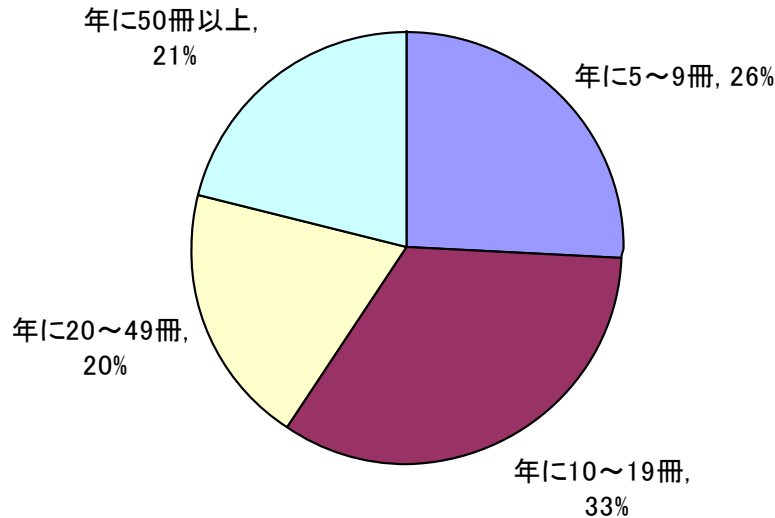
# サンプルプロフィール: 職業



学生が1/3,社会人が2/3であることに注意。学生が多数派ではない社会人のうち半分はオフィスワーカーである。

# サンプルプロフィール：読むマンガの量と可処分所得

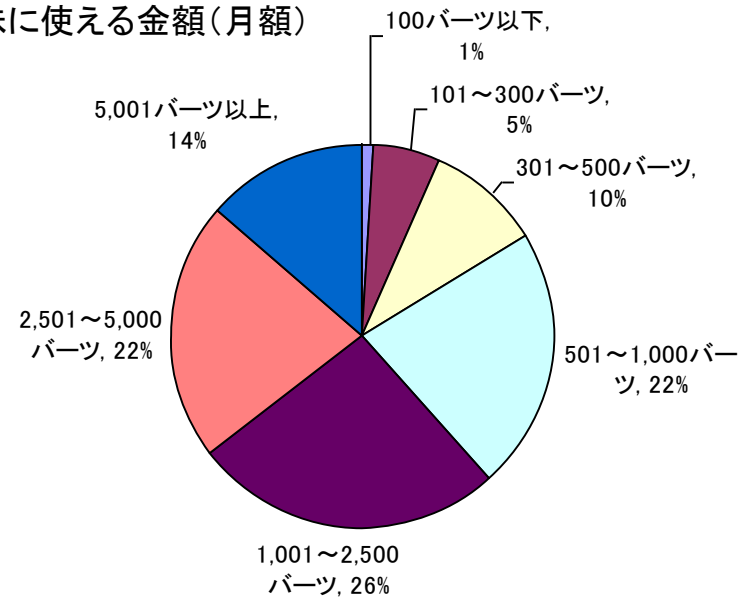
1年に読むマンガの冊数



年に読むマンガの冊数がかかなり多い人たちが入っていることに注意。すなわち、サンプルはマンガのファンである。

1年に読むマンガ	人数	比率
年に5～9冊	129	26%
年に10～19冊	167	33%
年に20～49冊	99	20%
年に50冊以上	105	21%
	500	100%

趣味に使える金額(月額)



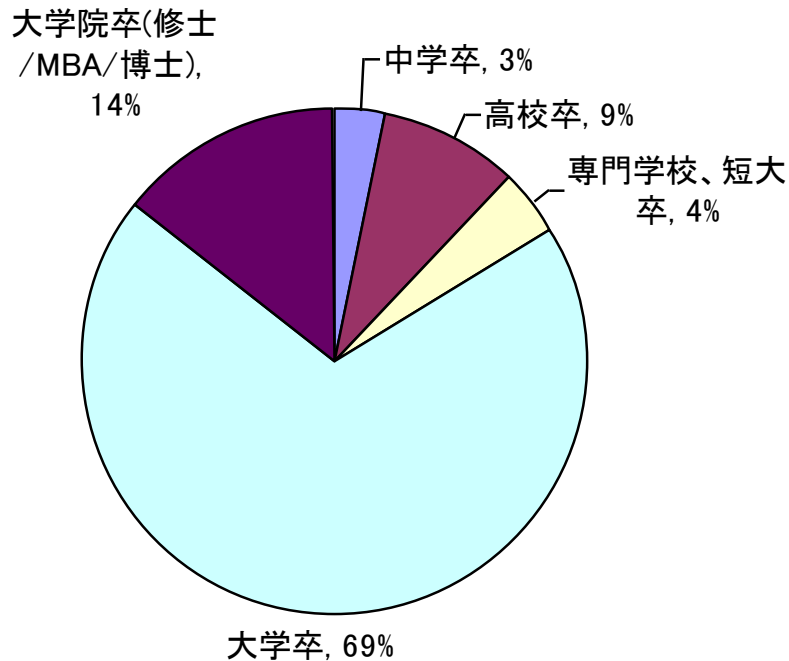
学生平均2168パーツ。社会人平均2738パーツ。ほとんど差がない！タイの大卒の初任給は約1.2万パーツなので、2500パーツはその1/5。→かなり高所得層

1か月に趣味で使える金	人数	比率
100パーツ以下	6	1%
101～300パーツ	27	5%
301～500パーツ	49	10%
501～1,000パーツ	110	22%
1,001～2,500パーツ	130	26%
2,501～5,000パーツ	110	22%
5,001パーツ以上	68	14%
	500	100%

日本の大卒初任給が20万程度なので、その1/5は4万円。→日本で4万円を趣味に使える学生と社会人に相当

# サンプルプロフィール: 学歴

## 最終学歴(社会人のみ n=304)



最終学歴(社会人のみ)	人数	比率
中学卒	10	3%
高校卒	27	9%
専門学校、短大卒	13	4%
大学卒	210	69%
大学院卒(修士/MBA/博)	44	14%
	304	100%

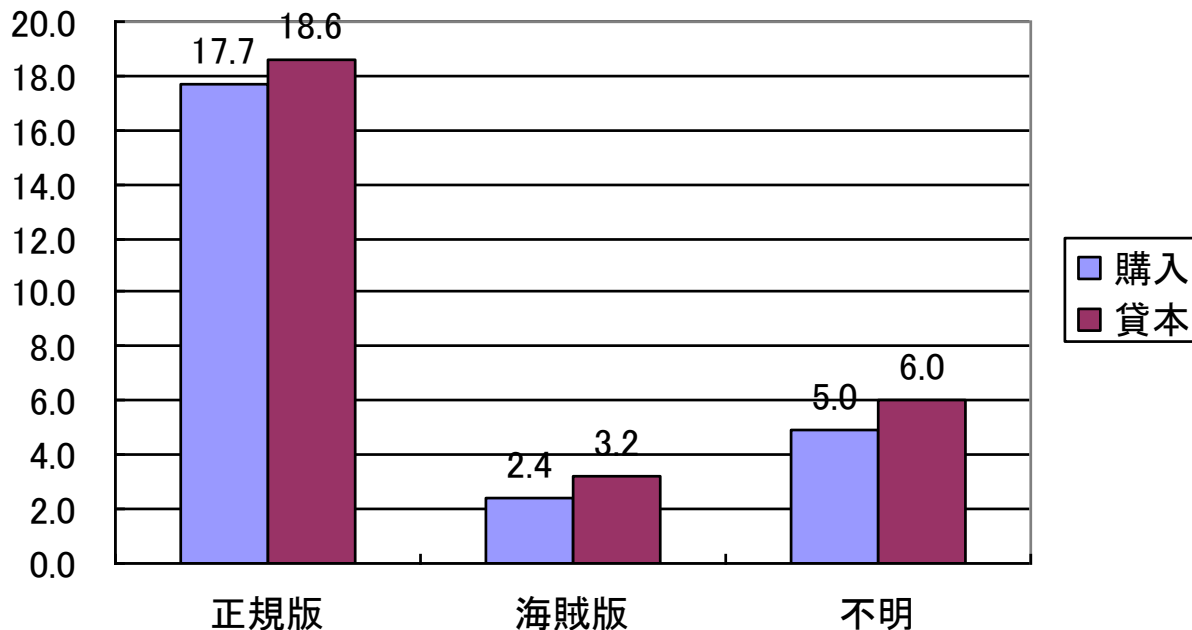
大学卒が69%であり、大学院卒が14%に達している。  
タイの大学進学率46%(2009)と比べても高い数字であり、非常に高学歴である。  
サンプルがパソコンを持っている人であることの結果と考えられる。

タイの大学進学率

[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048\\_6.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_6.pdf)

# 現在読むマンガ本の正規版と海賊版の冊数(購入・貸本別)

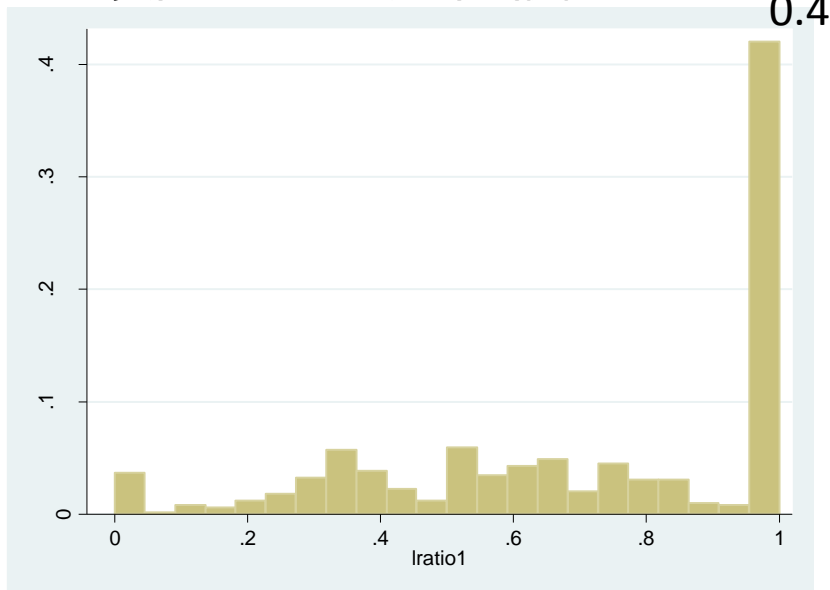
1年間に購入あるいは貸本屋で読んだマンガの本：  
正規版・海賊版別



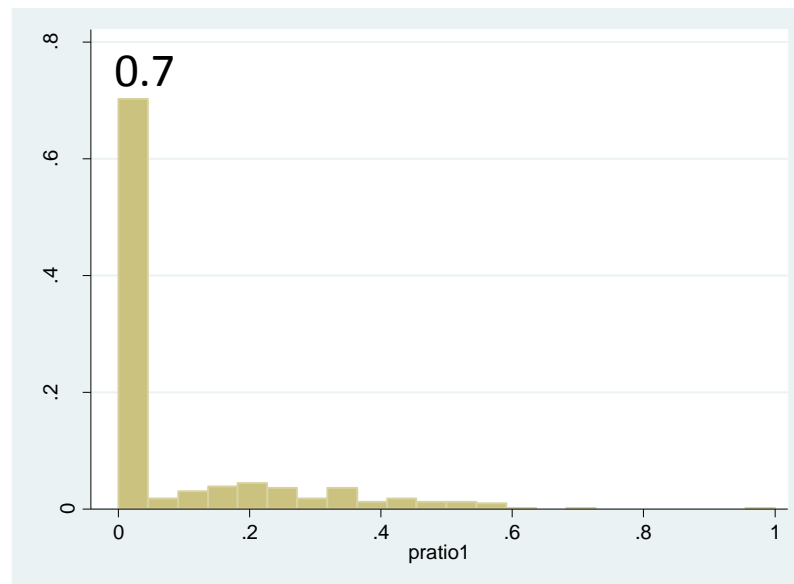
縦軸は冊数である。購入と貸本であまり差がない。  
正規版が7割を占めている。建前を答えるために高くなっている可能性はある。  
ただし、このグラフでの海賊版の比率は10%なので体感とほぼ一致する。  
#体感が5%で、体感よりやや海賊版比率が高いのは、海賊版流通ルートとして  
店頭や路上以外のルートもあるからであろう。

# 現在読むマンガ本の正規版と海賊版の比率(購入)

正規版の比率の分布(縦軸は比率)



海賊版の比率の分布(縦軸は比率)



読む総冊数に占める正規版の比率と海賊版の比率を計算し、その分布を描いた。  
(正規版か海賊版か不明の冊数があるために両者は足して1にはならない)  
正規版だけ読むという人が4割、海賊版は全く読まないという人が7割いる

正規版の比率は幅広く分布しており、正規版比率が2~3割の人もある。  
ただし、海賊版の比率はおおむね5割以下とどまる。分布が一致しないのは、  
不明の冊数が多いからである

## 回帰分析：正規版・海賊版比率を決定づけるもの

	正規版比率		海賊版比率		
	係数	t値	係数	t値	
年齢	0.004	1.17	-0.003	-1.63	
教育水準	-0.001	-0.07	-0.006	-0.83	
性別(男性=1)	-0.004	-0.15	0.023	1.66	*
自由に使える所得	0.001	0.05	0.010	2.00	**
定数項	0.616	8.25	0.108	2.96	
n	488		488		
R2	0.0051		0.0307		

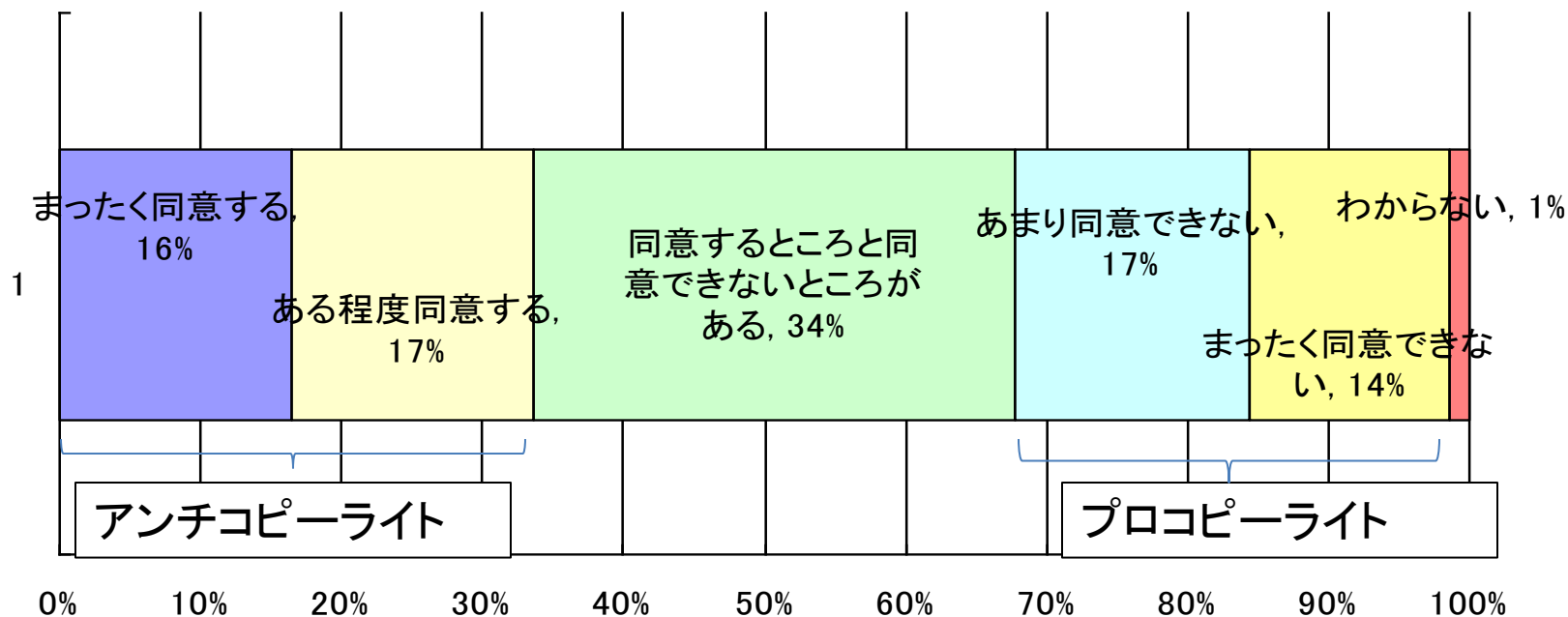
- 正規版・海賊版の比率を被説明変数とした回帰結果
- 代表的属性プロフィールである「年齢、教育水準、性別、所得水準」をいれたが有意なものは少ない。海賊版で所得が5%で有意であるが符号が理論と逆である。決定係数もひどく低い
- 結論として、正規版・海賊版の選択に「年齢、教育水準、性別、所得水準」は影響を与えていない。
- ではなにが？ →読者の著作権意識が影響している可能性はないか？
- →著作権意識を探る設問を実施

# 著作権意識：ある海賊版業者の言い分に同意するか

ある海賊版業者が、海賊版のマンガ本に次のような声明をつけていました。

「印税という形で、何故もうすでにお金持ちの日本のマンガ本の著者にお金をタイから払わなければならないのかわからない。私たちはその印税分を読者に還元しているし、また正規版よりずっと早くタイの読者に作品を届けることで大いに読者に貢献している。」

あなたは、この意見にどの程度同意しますか。



ちょうど半々に分かれたので、中間を除いて、2類型に分けた。  
アンチコピーライトとプロコピーライトである。

	正規版比率		海賊版比率	
	係数	t値	係数	t値
年齢	0.004	1.18	-0.002	-1.49
教育水準	-0.005	-0.36	-0.01	-0.74
性別(男性=1)	0.009	0.33	0.02	1.28
自由に使える所得	-0.002	-0.18	0.01	2.10 **
プロコピーライト	0.14	4.38 **	-0.04	-2.41 **
アンチコピーライト	-0.09	-2.70 **	0.06	3.69 **
定数項	0.62	8.49	0.09	2.53
n	488		488	
R2	0.097		0.0986	

- 著作権保護に積極的な人ほど正規版比率が高い。著作権保護に否定的な人ほど海賊版比率が高い。予想通りの結果
- 著作権保護意識の程度が、海賊版利用に影響を与えていると解釈できる。



## 現在の海賊版利用のまとめ

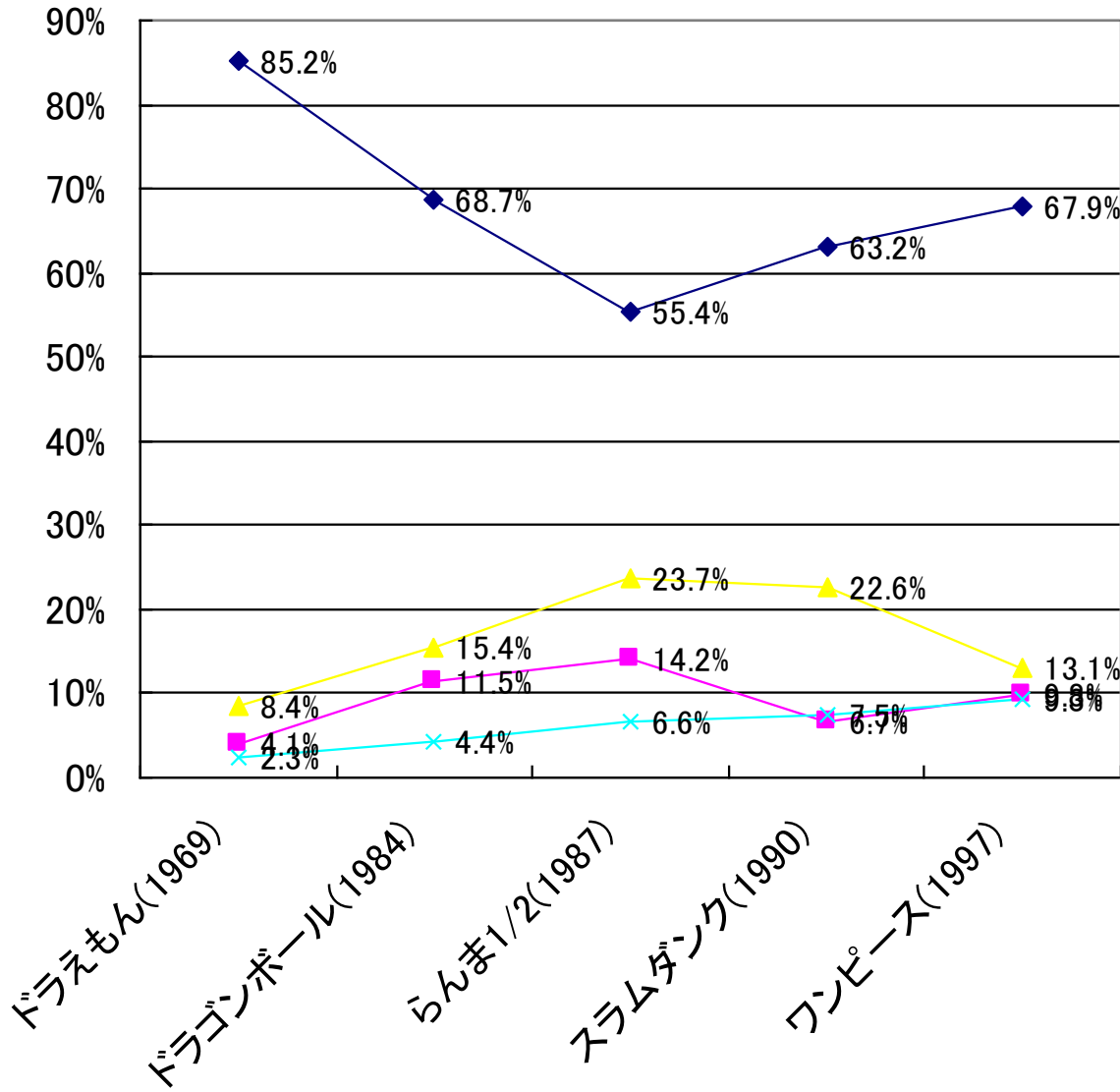
- アンケート調査は、PCモニターの中から、マンガを年に5冊以上対価を払って読む人を500人選んだ。パソコン利用者なので、高学歴。高所得者層である。
- 読むマンガのなかで正規版の比率は7割、不明が2割、海賊版が1割程度である。海賊版の比率が1割程度なので、体感とほぼ一致する。
- 海賊版で読むか正規版で読むかを決める要因として、「年齢、教育水準、性別、所得水準」は関係がない。著作権保護意識は関係しており、保護意識の高い人ほど正規版を選ぶ傾向がある。
- ここまでは現状の海賊版・正規版の利用比率の話である。次に過去どう変遷してきたかを見てみる→次ページ

## 正規版利用の変遷

- タイにおける代表的人気漫画を年代順に選び、正規版で読んだかどうかを聞いた
- 読んだ人のうち、正規版あるいは海賊版で読んだ人の比率を求めた。
- 答えない・わからないと答えた人は4%以下で無視して良い。

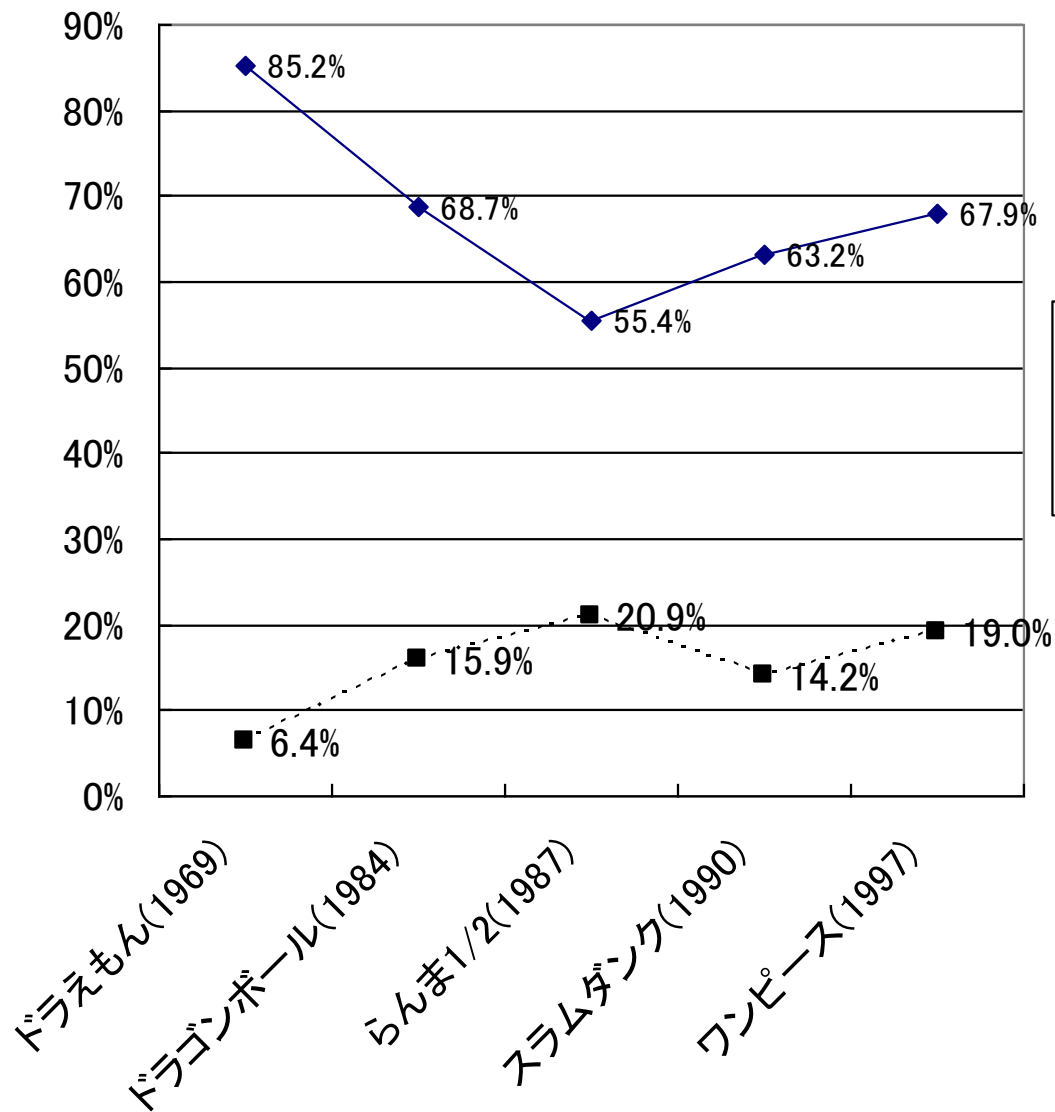
	ドラえもん (1969)	ドラゴンボール (1984)	らんま 1/2(1987)	スラムダンク (1990)	ワンピース (1997)
日本における連載期間	1969-96	1984-95	1987-96	1990-96	1997-連載中
正規版で読んだ	414	299	175	218	264
海賊版で読んだ	20	50	45	23	38
不明だが読んだ	41	67	75	78	51
スキャンで読んだ	11	19	21	26	36
読んだことがない	13	55	168	136	97
答えない・わからない	1	10	16	19	14
読んだ人(1-4)合計 (比率)	486	435	316	345	389
正規版で読んだ	85.2%	68.7%	55.4%	63.2%	67.9%
海賊版で読んだ	4.1%	11.5%	14.2%	6.7%	9.8%
不明だが読んだ	8.4%	15.4%	23.7%	22.6%	13.1%
スキャンで読んだ	2.3%	4.4%	6.6%	7.5%	9.3%

## 正規版利用の変遷(グラフ)



- 正規版で読んだ人は80年ごろまでは低下していたが、90年代以降は上昇に転じている。
- 海賊版の比率は90年代以降低下。スキャンレーションの比率はまだ低い

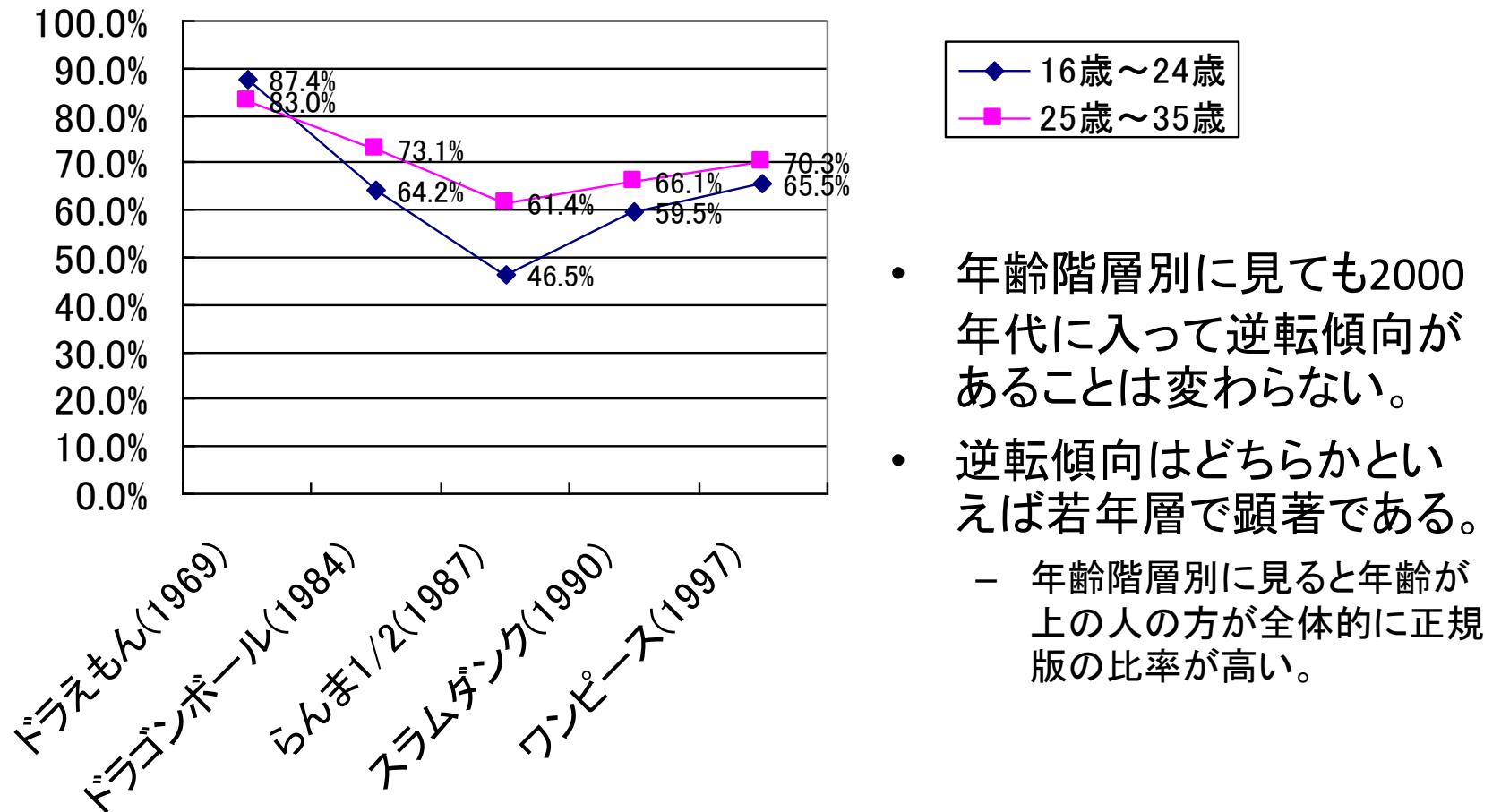
## 正規版利用の変遷(スキャンレーションと海賊版を足した)



- 海賊版とスキャンレーションを合わせて違法コピーとして描画した。すると違法コピーは頭打ちである。
- 海賊版がスキャンレーションに置き換わっている面はあるが、スキャンレーションの比率はまだ低く、違法コピーを増大させてるわけではない

## 正規版利用の変遷(年齢グループ別)

正規版で読んだ人の比率:  
年齢グループ別

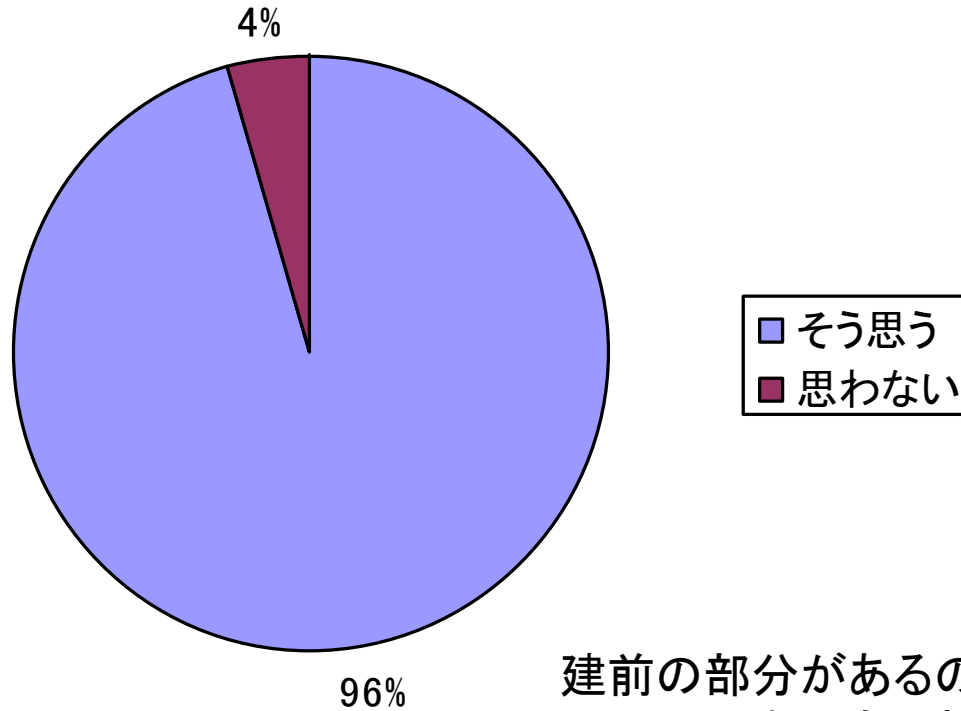


## 正規版利用の変遷のまとめ

- タイでマンガを年代順に並べて正規版の利用度合いを見ると、1990年までは正規版利用はむしろ減っており、海賊版が蔓延していたと考えられる。しかし、2000年代から次第に正規版の利用者が増えている。2000年以降の変化はヒアリングで得た知見と一致する。
  - なお、(1)過去の記憶は不確かであること、(2)読んだ時期は発売時期と一致しないこと、(3)加齢効果(年齢があがると海賊版を読まなくなる)があることを配慮する必要がある。
  - 昔の作品ほど(1)の記憶と(2)時期のずれは大きくなる。特にドラエモンはやはりすたれなく読まれているので、(2)のずれが生じやすい。海賊版ばかりであった時期に発売されたドラエモンを正規版で読んだ人が8割もいるのは、このためと考えられる。すなわち、「小さい頃に読んだので正規版と思いこんでいた」/「大人になってから読んだので正規版になっていた」の2要因で正規版比率が上がっていると考えられる。逆に言えば最近の作品の場合は、(1)(2)のかく乱は少ないだろう。この点で最近の3作品の増加傾向は比較的信頼できる。
  - 加齢効果によるかく乱の可能性は残っている。ただし、海賊版利用率の回帰で年齢が有意になっていないこと(p15)、年齢階層でグループに分けても傾向は変わらないこと(p21)から、加齢のかく乱の影響は小さいのではないかと推測される。
- スキャンレーションの利用者は最近増えているが、数値自体は小さい。海賊版の減少をスキャンレーションの増加が埋め合わせているが、それでも増加傾向とはいえない。
- 正規版利用が増えてきたのはなぜか？

# 正規版を買いたいという人の比率

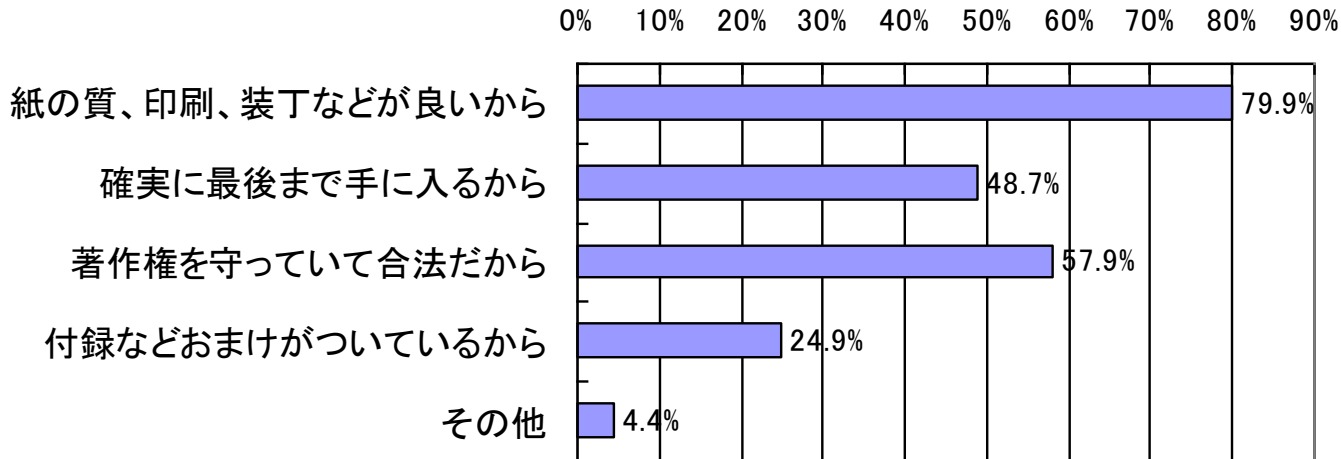
マンガを買う時できれば正規版を買いたいと思うか



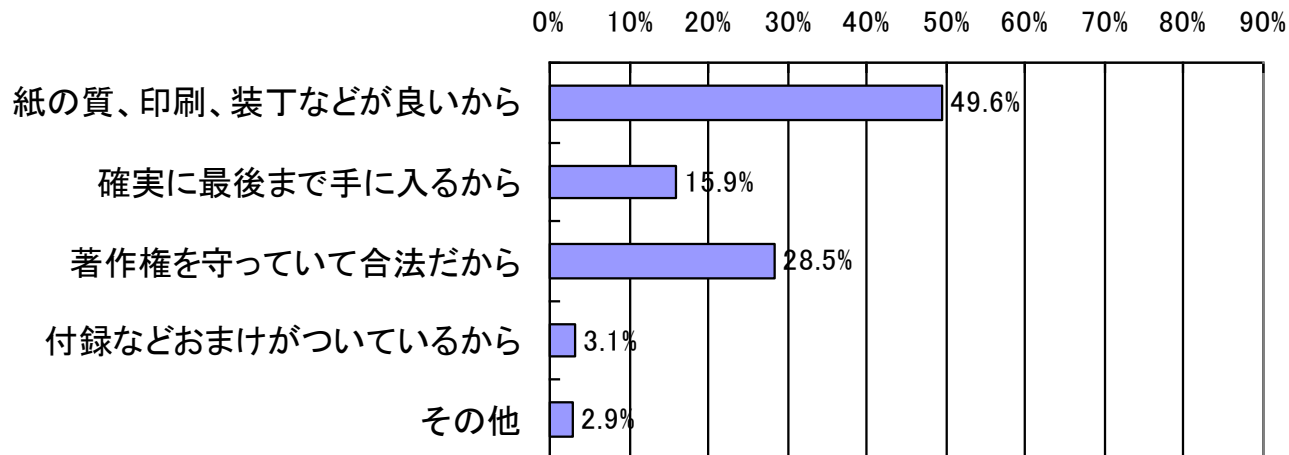
建前の部分があるのでそのまま受け取れないが、しかし、それでも正規版を買いたい人の比率96%というのは高い数値である。

# 正規版を買いたい理由

## 「正規版を買いたい」理由(複数回答)



## 「正規版を買いたい」理由(もっとも重要な理由を一つ回答)



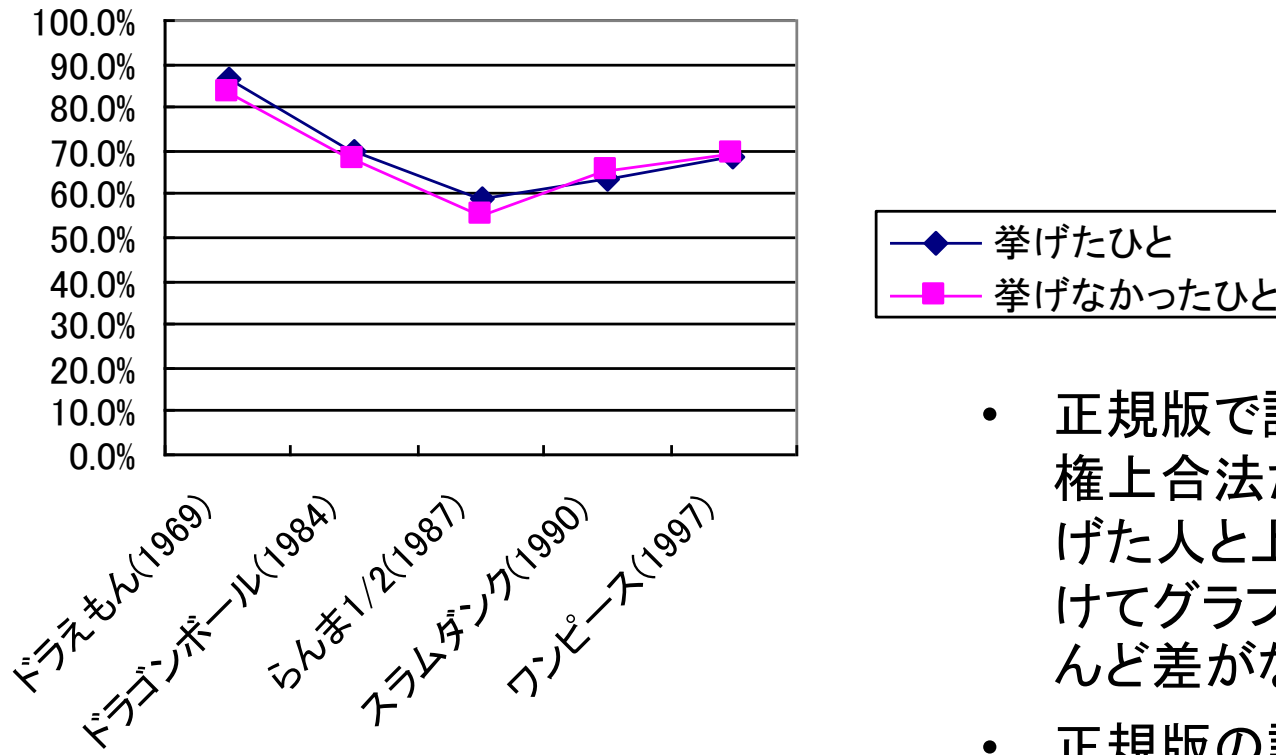
正規版を買いたい理由は、紙の質・印刷などの品質がもっとも大きく、半分に達する。

ついで著作権を守っていて合法だからが30%程度で続き、確実に最後まで手に入るからが15%程度である。



# 正規版利用の変遷：著作権意識別その1

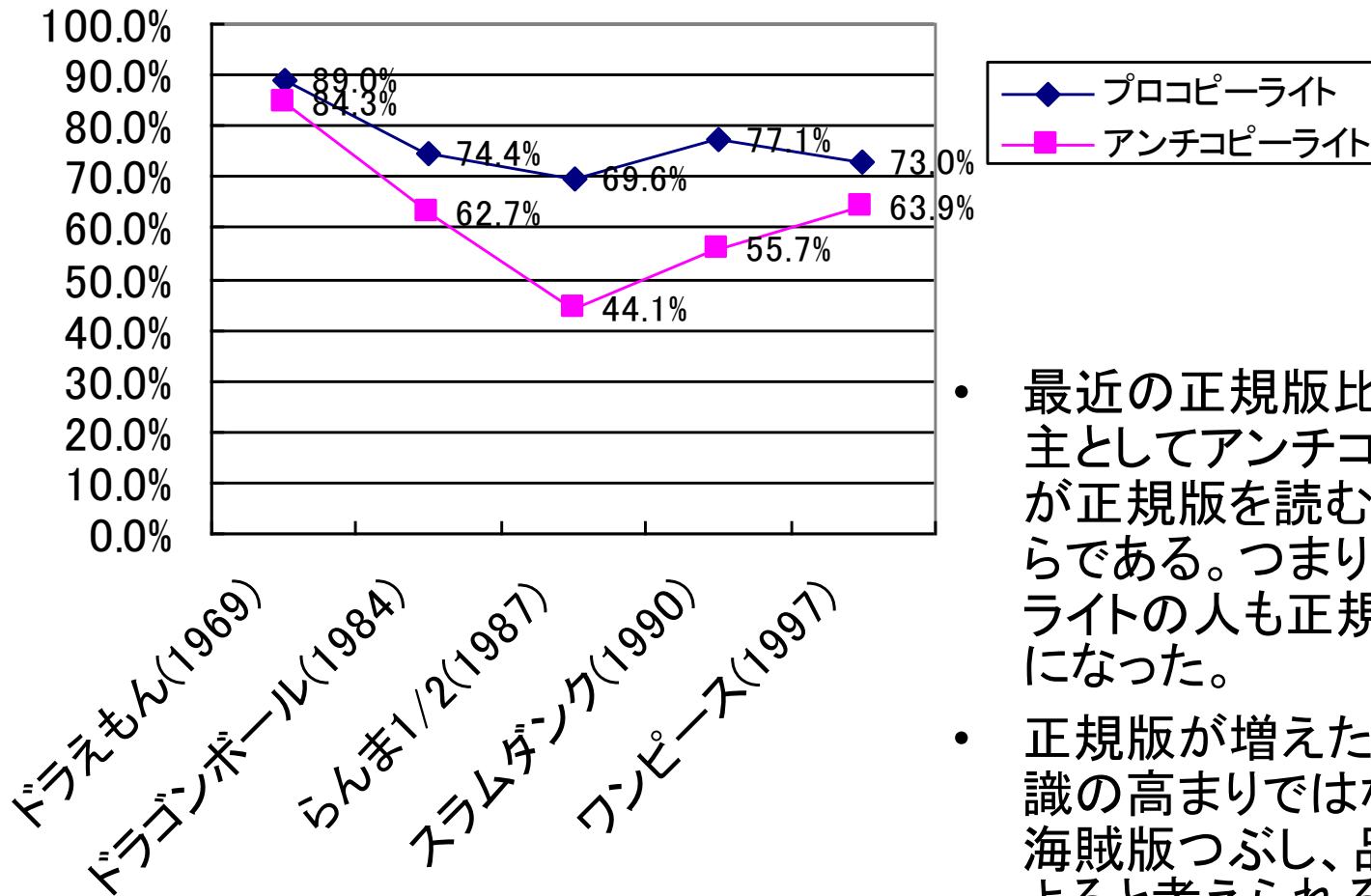
正規版で読んだ人の比率：  
正規版で読みたい理由に著作権を挙げた人と挙げなかった人



- 正規版で読みたい理由に著作権上合法だからという理由を挙げた人と挙げなかった人に分けてグラフを描くと、両者にほとんど差がない。
- 正規版の読者が増えているのは読者の著作権意識の高まりによるものではない。

## 正規版利用の変遷：著作権意識別その2

正規版で読んだ人の比率：  
著作権意識別



- 最近の正規版比率の上昇は、主としてアンチコピーライトの人が正規版を読むようになったからである。つまり、アンチコピーライトの人でも正規版を買うようになった。
- 正規版が増えたのは著作権意識の高まりではなく、供給側の海賊版つぶし、品質の差などによると考えられる。

## 要約

- 正規版で読む人は80年代は低下傾向で、海賊版が蔓延していたことが、90年代から2000年代に入って増加に転じている。同じころ海賊版で読んだ人は減少に転じており、趨勢の変化があったことがわかる。現時点での海賊版利用率は10%である。これらはヒアリングの知見とほぼ一致する。
- 正規版が増えているのは読者の著作権意識の高まりというよりは、供給側が海賊盤潰しをし、また品質の差に訴えているからと思われる。これもヒアリングでの知見と一致する。